

## 10-6 琵琶湖から関西へ

滋賀県は、関西広域連合広域環境保全局の事務局を担っており、「地球環境問題に対応し、持続可能な社会を実現する関西」を目標として、広域的に取り組むことにより住民生活の向上が期待できる施策を実施しています。

### 1. 持続可能な社会を担う育て

関西には自然、歴史、文化などの豊かな地域特性があります。関西広域連合広域環境保全局では、こうした地域資源を活用した環境学習コンテンツについて、関西広域連合を構成する府県市と共有を図っています。中でも、滋賀県でこれまで培ってきた琵琶湖を学ぶプログラムとして実施されている学習船「うみのこ」を活用した親子体験航海は、関西広域連合の構成府県から参加者を募集して、琵琶湖の生物に関する学習や、雄大な琵琶湖北湖の景色の展望により、水道の水源だけでなく、魅力あふれる琵琶湖を体験し、国民的資産とされた琵琶湖で有意義な学習を実施しています。「うみのこ」による航海により、人と水に住む生き物のつながりを知ってもらい、琵琶湖で学んだことが関西各地の環境保全に役立っています。

### 2. 生物多様性の保全と活用の取組推進

生態系サービスの維持・向上のための取組を「どこで」「どういったつながり」に注目して進めるべきかの方向性を示すため、琵琶湖・淀川流域やその水源となる山地など森・川・海のつながりに着目したひとまとまりの環境を『関西の活かしたい自然エリア』として選定しました。

写真10-6-1▶  
関西の活かしたい自然エリア



環境政策課・自然環境保全課

## 琵琶湖から世界へ

トピック

### 1. 世界への情報発信

琵琶湖は、滋賀県はもとより近畿圏にとって貴重な水資源であるとともに、多面的な価値を持つ自然の宝庫でもあります。かつては、富栄養化による危機的な状況もありましたが、「せっけん運動」や「富栄養化防止条例の制定」など先駆的な取り組みにより、その危機を乗り越えてきました。現在、県では、「マザーレイク21計画」や「琵琶湖保全再生計画」(P.238「10-4」参照)などに基づき、琵琶湖の総合保全に向けた取り組みを展開しており、これらを広く世界へ発信することで世界の湖沼保全に貢献しています。

とを目的に、1986(昭和61)年に草津市に設立しました。科学者等からなる科学委員会を内部に有し、その助言のもとに世界の湖沼環境保全にかかる情報収集・提供、調査研究、環境研修など国際的な活動を展開しています。



写真T-1 第16回世界湖沼会議の様子  
(2016(平成28)年11月  
インドネシア共和国バリ島)

### 2. 具体的な取組例

#### (1)「世界湖沼会議」の開催

世界の湖沼環境の保全に係わる行政担当者、研究者、市民が一堂に会し、共に考え、手を携え具体的な行動につなげていく契機とするため、県が1984(昭和59)年に「世界湖沼会議」を提唱・開催しました。現在も、(公財)国際湖沼環境委員会(ILEC)等により、およそ2年毎に世界各地で開催されており、県からも多くの方が参加し、琵琶湖での取組を世界に向けて発信しています。

#### (2)「(公財)国際湖沼環境委員会(ILEC)」の設立

世界各地で開催された世界湖沼会議の成果を踏まえて、世界の湖沼環境の健全な管理方法の確立とその推進を行うこ

#### (3)「第3回世界水フォーラム」の開催

世界水フォーラムは、3年に一度、世界中の水関係者が一堂に会し、水問題解決に向けた議論や展示などが行われる世界最大級の国際会議です。2003(平成15)年3月には、第3回フォーラムを琵琶湖淀川流域で開催し、水不足、水質汚染、水をめぐる国際紛争など、顕在化している水の危機を解決するため、水に関わるあらゆる分野の人が集まって議論しました。それ以降も、世界水フォーラムにて、琵琶湖での取組を世界に向けて発信し続けています。

琵琶湖政策課